

# 東久留米市環境審議会 会議録

1. 会議名 平成 27 年度第 4 回東久留米市環境審議会
2. 日 時 平成 28 年 1 月 22 日（金） 午前 10 時 00 分から午後 12 時 30 分
3. 場 所 東久留米市役所 3 階 議会会議室
4. 出席委員氏名（敬称略） 杉原弘恭（会長）、重藤さわ子、大山久仁夫、宮川正孝、樋川紘一、水戸部啓一、梅村清、三間優子、田原悟子（以上 9 名）
5. 欠席委員氏名（敬称略） 宗友之、山本直（以上 2 名）
6. 事務局職員名 小林尚生環境部長、荒島久人環境政策課長、小平卓係長（計画調整係）、熊部真係長（緑と公園係）、藤井華子主事（計画調整係）、小林秀敏主任（生活環境係）
7. コンサルタント会社（株式会社 総合環境計画） 花田浩一、植田恵理
8. 傍聴人 なし
9. 次第
  - (1) 開会あいさつ
  - (2) 議題
    - ①平成 27 年度第 3 回環境審議会会議録の確認について（資料 1）
    - ②東久留米市環境基本計画の改定について（資料 2-1～3）
    - ③東久留米市緑地保全計画（素案）について（資料 3）
  - (3) その他
    - ※環境政策課からの報告
    - 平成 28 年度予算要求状況（資料 4）
    - 環境シンポジウムについて（3/26（土）PM2：00 市民プラザ）
    - 環境フェスティバルについて（6/11・12（土・日）他）（資料 5）

## 10. 配布資料

|                            |        |
|----------------------------|--------|
| 平成 27 年度第 3 回環境審議会会議録（案）   | 資料 1   |
| パブリックコメント意見と対応案            | 資料 2-1 |
| 環境基本計画案（パブリックコメント・検討部会調整後） | 資料 2-2 |
| 環境基本計画策定スケジュール（案）          | 資料 2-3 |
| 東久留米市緑地保全計画（素案）            | 資料 3   |
| 環境政策課平成 28 年度予算要求項目概要      | 資料 4   |
| 環境フェスティバルアンケート             | 資料 5   |

## 11. 平成 27 年度第 4 回環境審議会

- ・ 審議会長のあいさつ
- ・ 出欠席者の報告           出席 9 名、欠席 2 名、定足数に達しており会議は成立
- ・ 資料の確認

### (1) 平成 27 年度第 3 回環境審議会会議録の確認について（議題①資料 1）

【事務局】資料 1、説明。

- ・ 平成 27 年度第 3 回環境審議会会議録（案）を要点筆記したもの。
- ・ 異議がなければ、発言者の名前を伏して公開する。

【会長】なにか、意見があるか。

（異議なし）

### (2) 東久留米市環境基本計画の改定について（議題②資料 2-1～2）

【事務局】資料 2-1～2、第 3 回審議会の意見を踏まえ計画素案を作成し、12 月 1 日から 21 日の間でパブリックコメントを実施した。その意見に対する対応を環境基本計画検討部会で検討を行った。また、庁内環境委員会を開催し意見も頂戴している。（第 3 章「します」「していきます」の統一）これらの対応等に対してご意見をいただきたい。

【会長】2 名の委員が検討部会に参加いただいているが、今の説明に補足がありますか。

【委員】特に補足というわけではないが、これまで計画の内容について検討部会で慎重に議論を重ねてきた。みなさんに見ていただき、なにかご指摘があれば、さらに検討したいと思う。

【委員】パブリックコメントの結果を踏まえて、わかりやすさ、見やすさについて再検討した。一般の方にもわかりやすい内容となっているかどうかについても確認

して欲しい。

- 【委員】資料 2-2 の P7 の個別目標 2 だが、「山林」ではなく「樹林地」ではないか。東久留米で山林というのは違和感がある。
- 【会長】今の指摘に関連して意見がある。P18 の赤いところは「緑地」ではなく「樹林地」ではないか。定義を確認したい。
- 【事務局】緑地自体が樹林地や農地を含んでいるので、ご指摘通り樹林地に変更したい。P7 の方は地目上の区分が山林となる。
- 【会長】緑地保全計画の P2 の表 1 と P5 の表 3 には「山林」という地目は出てこない。
- 【事務局】ここでは航空写真から草地、農地、樹木、樹林と判断されたものについて記載している。
- 【会長】「かんきょう東久留米」ではどうなっていたか。
- 【事務局】二通りの見方があるのは事実である。市内全体で緑に見える部分を表した場合は緑被地である。また、地目から割り出した場合には、山林という表現になる。
- 【会長】確認のため、「かんきょう東久留米」を見てみたが、計画案の数値と異なっているようである。これは間違いか。
- 【事務局】間違いである。正式な結果が出る前に作成したものであるため、最新のデータに修正する。「山林」の表記については、データの性質上、実際には山林に見えなくとも地目別では山林となってしまう。違和感があるかもしれないが、このような表現になる。
- 【会長】地目別土地利用で、宅地、畑、山林、その他となっているが、表記は畑と山林を足したものであるということが良いか。地目別で合せるなら農地はない。「畑と山林の割合（地目別）」と表記した方がよいと思う。それか緑の基本計画との兼ね合いで、緑被率を採用するか。
- 【委員】緑被率は毎年とっているのか。
- 【事務局】緑被率は基本的に計画の策定時などに実施する調査項目である。
- 【委員】ここに掲載する指標は、「かんきょう東久留米」で毎年レビューできるものを採用した方がよいと思う。
- 【会長】その通りである。そのように修正して欲しい。
- 【委員】コラムの位置づけはどのようになっているのか。現在の記載では提案型のように見受けられる。計画の中に盛り込むものと位置づけるのか、あるいは単に補足的な情報として掲載しているのか。
- 【委員】コラムの役割は、計画の理解を深めるものである。冊子の中心は計画の本文である。
- 【委員】コラムは役割分担をして作成しており、書き手も思いが詰まった内容となっている。現時点でコラムの書きぶりなど、書き手との間で意思を合せていない。ただし、計画を実行していく上では、啓蒙的なコラムがあっても良いのではない

かと考えた。

- 【会 長】 資料 2-2、P5 のコラムはわかりやすさを重視して執筆したのだが、今日、配布した生物多様性のコラムは正確さを重視したのでわかりにくいかもしれない。
- 【委 員】 このコラムは内容が難しい。資料編に入れた方がいいと思う。用語集に入れるのはどうか。
- 【会 長】 了解。
- 【委 員】 正確に記載しようとする、コラムの量では足りない。難しく書きすぎないように、検討部会でも注意した。
- 【事 務 局】 生物多様性のコラムは、パブリックコメントへの対応という位置づけもある。
- 【委 員】 P17、湧水点のコラムの上から 4 行目の筆記体の l は L に直して欲しい。また溶存酸素濃度 8mg/L とあるが、これは正しいのか。溶存酸素濃度が低すぎると生物が生存できなくなる。湧水の定義とはどのようなものか。
- 【事 務 局】 国などにおいても湧水の定義は設けていないので、市民環境会議で議論して定義を決めた。溶存酸素濃度があまりにも高いと水溜まりの可能性がある。
- 【委 員】 これはあくまでも湧水判別の目安であり、公式なものではない。
- 【事 務 局】 溶存酸素濃度があまりに低いと生物が棲めないが、湧水である場合は湧水と認めざるを得ない。このことは市民環境会議でもかなり議論を重ねた。
- 【委 員】 コラムでは湧水の定義を伝えたいのではなく、湧水に関する調査を市民が行なっていることを知って欲しいというのが狙いである。学術調査や行政の調査であれば定義は大事だが、市民の活動であるので理解して欲しい。
- 【委 員】 このコラムはもともと、湧水点の意味がわかりにくいという議論があったため掲載することになった。
- 【委 員】 了解した。ところで、今後の課題ということになるかもしれないが意見を述べたい。生きもの関係のページでは、各主体の役割で、事業者に「○」が付いてないところが多いが、これでは今後につながらないと思う。事業者が湧水点の看板を立てるなど活動はできると思う。
- 【委 員】 企業が様々な活動をしているのは確かである。
- 【会 長】 これは今後の課題である。
- また、資料 2-2、P47 の 2、計画策定の前提条件、策定内容のところだが、これは「生物多様性地域戦略」ではなく、「生物多様性国家戦略」ではないか。
- 【事 務 局】 ご指摘の通りであるので修正する。
- 【委 員】 P14 の計画の体系、「施策の方向」を「施策」ではなく、「方向」とつける意味なにか。
- 【会 長】 「施策の方向」は施策の上位概念である。「施策」としてしまうと整理がつかなくなってしまう。
- 【委 員】 個別目標ごとに「施策の方向」とあると気になってしまう。「基本目標」、「個

別目標」、「施策の方向」、「施策」、「取り組み」など色々な言葉が出て来る。

【会長】今自由学園の生徒とレイアウトを検討中しているが、検討部会からも施策の階層をビジュアルに表現できないかという要望をもらっている。今の意見を申し伝えたい。

【委員】施策の方向」という表現は、一次計画の時から引き継いでいるものであるが、ご指摘の通りわかりにくいと思う。

【委員】P28の説明文で、「外来種の進入・拡大を抑制します。」とあるが、「外来種は駆除します。」に変えた方が良いのではないか。

【委員】外来種の中には園芸種などもある。園芸種を河川に植えないというところにも関係してくる。

【事務局】数が増えすぎて問題となるようであれば最終的には駆除となるが、まずは抑制が先である。外来種とは言え生き物であるので、駆除ありきではなく抑制ありきで考えたい。

【会長】「入れない」「捨てない」「拡げない」の三原則の中に、駆除の意味も含まれていると思う。

【委員】P50は「ネットワーク化」ではなく、「ネットワークづくり」の方が良いと思うがどうか。

【委員】ネットワークづくり」という表現にすると主体性が変わってくると思う。「づくり」という表現には恣意性が感じられる。「化」であれば、自然発生的なイメージがある。

【委員】他の自治体の連携以外にも市内のネットワークを促進しようという意味も含まれている。

【委員】了解した。

【会長】本日いただいた意見などを踏まえて、検討部会で再度検討してもらいたい。今後は検討部会部会長と会長の私に一任ということで良いか。

(一同同意)

【会長】ではスケジュールについて確認したい。事務局より資料2・3の説明をお願いする。

【事務局】今後は細かい文言の修正や、レイアウト、コラムについて2月4日の検討部会で話し合う予定である。内容については審議会長と検討部会長に一任いただく。その案をもって2月末に市に対して、答申していく予定である。その後は3月に印刷・製本を行い、3月末には発行というスケジュールで考えている。答申については審議会長より市長へ渡していただく予定である。基本的に日程は市長と会長の予定で決めることになるが、予定の合う方には出席して欲しい。

【会長】できればみなさんと答申したいと思う。今のスケジュール通り、今後は会長、副会長、事務局に一任してもらおうことになるので、よろしくお願ひしたい。

(一同同意)

③東久留米市緑地保全計画（素案）について（資料3）

【事務局】資料3、説明。

【会長】構造が複雑で、すぐにはわかりづらいとは思いますが、いろいろな理由があって現状のようになっている。意見があれば言ってほしい。

【委員】質問だが、P13のフロー図の利活用を促進する緑地（8地区）というところとP15の評価基準のところわかりづらい。説明して欲しい。

【会長】P18を見て欲しい、リストにはダブリがあると思う。保全を目指している表と市民の利活用の観点からの促進で重なるところが出てくる。

【委員】15の評価基準だが、10項目あるうちの5項目がエコロジカルコリドーとなっている。これはエコロジカルコリドーが形成されるような地域を優先的にやっていきますという意味が見えるがどうか。ここまでエコロジカルコリドーに配分を振った理由はなにか。

【会長】ポイントはいろいろあるが、P7の「水と緑の拠点」であくまで拠点性の中で評価ということになり、どうしても樹木の方にウエイトを置いてしまう。

【委員】自然環境と生活環境の配点を半々になるように設定している。

【委員】の説明はわかりやすい。

【委員】P13のフロー図をわかりやすくするのが難しい。

【委員】「取り組む優先順位（保全優先度）の明確化」の判断後に「利活用を促進する緑地」を判断してはどうか。

【委員】資料編に用語解説があるが、インデックスや本文とのリンクはないのか。

【会長】用語解説、最初のページの上段に「本文中で※で印した用語の解説です。」と記載してはどうか。

【委員】本文から見たときの対応はどうするか。

【委員】現在目次ページにある注釈をP1に移動してはどうか。※が出てくる最初のところに挿入するとわかりやすいと思う。

【会長】P1に表記して、目次ページにも残したままの方が、丁寧で良いと思う。

【委員】P15の評価指標で、「4.市民利用の増進」というのはおかしいと思う。

【会長】「評価指標」としていることが、おかしいのかもしれない。評価指標が目的というようになってしまっている。事務局は「増進」を「しやすさ」に変えても問題ないか。

【事務局】問題ない。

【会長】では「市民利用のしやすさ」に変更したい。

【委員】「評価指標」と「評価基準」をひっくり返してはどうか。

【会長】「評価基準」にしても、少し強すぎると思う。

「評価のポイント」ではどうか。「評価の基準」を「評価指標（評価項目）」に変えた方がいいと思う。

（一同同意）

(3) その他

※環境政策課からの報告

平成 28 年度予算要求状況（資料 4）

環境シンポジウムについて（3 / 26（土）PM2：00 市民プラザ）

環境フェスティバルについて（6 / 11・12（土・日）他）（資料 5）

【事務局】資料 3、4 説明。

【会長】生物多様性地域戦略計画の策定に向けて、生き物調査の予算要求をして先行実施したいとの説明である。それに先行して武内和彦先生に、環境シンポジウムで講演いただいているかどうか。

【事務局】今年の環境シンポジウムは環境基本計画を主題にしたいので、場合によっては、来年の環境シンポジウムで講演いただくことも検討したい。今年は年度末になったが、早期に実施することもできる。この件については、検討部会でも議論する。

【重藤委員】環境基本計画改定の主旨から外れてしまうと思う。武内先生に来ていただければ、もっとふさわしいところで講演していただきたい。

【委員】緑の基本計画見直しのキックオフでお呼びしてもいいかもしれない。

【委員】1 時間ではもったいないと思う。

【会長】では検討部会で検討をお願いします。

【会長】次の議題は、今年の環境フェスティバル（主催者：市と実行委員会）での来場者アンケートの設問項目である。資料として、第 18 回と第 19 回の折衷案で試作した。アンケートを用意したので見て欲しい。これは環境基本計画の年次報告につながるデータを再び取ることができる。これまでもアンケートを分析し、環境フェスティバルで継続して公表していたのだが、昨年度実行委員会でそれに対応する部分が削られてしまった。

【委員】これについては、我々で判断する権限がないと思う。

【会長】審議会からのお願い事項としたい。

【事務局】会長より改定案をいただいているが、一部を自由記述にしてしまうと、今までのように集計することができなくなってしまうのではないかと。

【委員】このアンケートは実行委員会の意向によって決まるというのはわかるが、実行委員会はアンケートを何に利用しているのか。

【事務局】このアンケートを用いて、翌年度以降のフェスティバルのあり方について、検討することになる。

【委員】今議論になっているのは、市として継続的にこのアンケートのようなデータ

を集めていくことが必要ということで、2つの目的が交に絡んでる気がする。データが必要なら、市として作ったアンケートに答えてもらえばいいし、実行委員会は実行委員会で集めたい情報を集める。両方を満たさなければいけないということはない。現状は2つを合せようとしているから議論になってしまっている。

【委員】市としてアンケートを実施するとすれば、年次報告として耐える内容でアンケートしなければならない。将来的に市として環境に関心のない層のアンケートを取ることも、視野に入れた方がいいかもしれない。PDCAを回すためには、市民の意識がどう変わってきたかはとても重要である。

【会長】この件については私と事務局に一任してもらって良いか。

(一同同意)

(4) 閉会

【会長】これで本日予定されていた全ての議題が終了した。平成27年度第4回環境審議会を終了する。ありがとうございました。

以 上